

各火山の 12 月の活動解説

【北海道地方】

雌阿寒岳めあかんだけ〔噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）〕

火山活動は概ね静穏に経過しており、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められない。

全磁力連続観測によると、ポンマチネシリ 96-1 火口南側の地下で温度の上がった状態が継続している可能性がある。今後の火山活動の推移に注意が必要である。

とからだけ

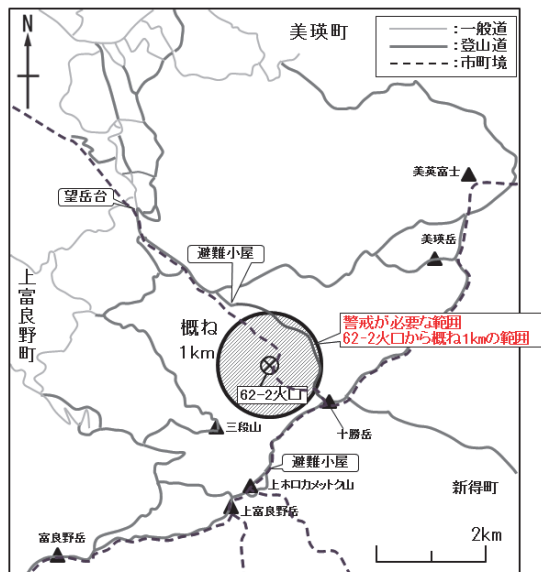
十勝岳〔火口周辺警報（噴火警戒レベル 2、火口周辺規制）〕←12 月 16 日に火口周辺警報を発表し、噴火警戒レベルを 1（平常）から 2（火口周辺規制）に引上げ

十勝岳では、ここ数年、山体浅部の膨張や大正火口の噴煙量増加および地震増加、火山性微動の発生、発光現象などが観測されており、火山活動が徐々に高まってきている。

2014 年 7 月頃から、62-2 火口に近い観測点で山体浅部の膨張を示すと考えられる地殻変動の変化率が大きくなっており、膨張がさらに浅い領域にまで及んでいる可能性がある。

このため、今後、ごく小規模な噴火の発生する可能性が高まっていると判断し、16 日 14 時 00 分に火口周辺警報を発表し、噴火警戒レベルを 1（平常）から 2（火口周辺規制）に引き上げた。

62-2 火口から概ね 1 km の範囲では、噴火に伴い弾道を描いて飛散する大きな噴石¹⁾に警戒が必要である。62-2 火口から概ね 1 km の外側であっても、風下側では火山灰や小さな噴石¹⁾が風に流されて降るおそれがあるため注意が必要である。



十勝岳 警戒が必要な範囲：62-2 火口から概ね 1 km の範囲（図の円内）

たるまきさん

樽前山〔噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）〕

火山活動は概ね静穏に経過しており、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められない。

山頂溶岩ドーム周辺では 1999 年以降、高温の状態が続いているので、突発的な火山ガス等の噴出に注意が必要である。

なお、以下に挙げる火山では、火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められない。

アトサヌプリ〔噴火予報（平常）〕

たいせつさん

大雪山〔噴火予報（平常）〕

くつたら

倶多楽〔噴火予報（平常）〕

うすざん

有珠山〔噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）〕

ほっかいどうこまがたけ

北海道駒ヶ岳〔噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）〕

えさん

恵山〔噴火予報（平常）〕

【東北地方】

はっこうださん

八甲田山〔噴火予報（平常）〕

「平成 23 年（2011 年）東北地方太平洋沖地震」以降増加していた八甲田山周辺の地震は、2014 年 2 月頃から減少し、今期間も少ない状況で経過した。2013 年 4 月から 7 月にかけて増加した、大岳山頂直下の地震活動は低調ながら継続していることから、今後の火山活動の推移に注意が必要である。

いわてさん

岩手山〔噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）〕

火山活動は概ね静穏に経過した。火山性地震が一時的に増加することもあるが、その他の火山活動に変化はなく、噴火の兆候は認められない。

あきたこまがたけ

秋田駒ヶ岳〔噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）〕

地震活動は低調で、地殻変動及び噴気活動にも変化はみられないが、女岳めだけでは、2009 年から拡大している噴気や地熱域が引き続きみられており、地熱活動が継続しているので今後の火山活動の推移に注意が必要である。

ざおうさん

蔵王山〔噴火予報（平常）〕

19 日と 29 日に火山性微動が 1 回ずつ発生した。19 日 04 時 38 分頃に発生した微動は、継続時間は約 1 分 20 秒と短いものの、2010 年 9 月の観測開始以降では 2 番目に振幅が大きなものであった。29 日 10 時 26 分頃に発生した微動は、振幅は小さく、継続時間は短いものであった。火山性地震は 18 回と、概ね少ない状況で経過した。

坊平観測点（山頂の南西約 5 km）の傾斜計²⁾では、19 日 04 時 38 分頃の火山性微動に先行して明瞭な南東（山頂の南側）上がりの変化が始まり、同日の昼頃にかけて継続した。その後、わずかな東（山頂のやや南側）上がりの変化となり、次第に緩やかになりながら継続している。29 日 10 時 26 分頃発生した火山性微動でも、先行して南東上りの小さな変化がみられた。

GNSS³⁾による地殻変動と噴気活動に特段の変化はみられない。

2014 年 8 月以降、火山活動の高まりがみられ、過去の活動期には、突発的な噴気孔の生成や、火山ガスの噴出等の現象があったことから、登山等で火口に近づく際には十分注意が必要である。

あづまやま
吾妻山[火口周辺警報（噴火警戒レベル 2、火口周辺規制）]←12 月 12 日に火口周辺警報を発表し、噴火警戒レベルを 1（平常）から 2（火口周辺規制）に引上げ

12 日 06 時 21 分頃に継続時間（約 35 分）の長い火山性微動が発生し、火山性微動発生後、火山性地震が増加した。浄土平（大穴火口の東南東約 1 km）の傾斜計²⁾では、火山性微動発生と同時に西（火口方向）上りの変動がみられた。

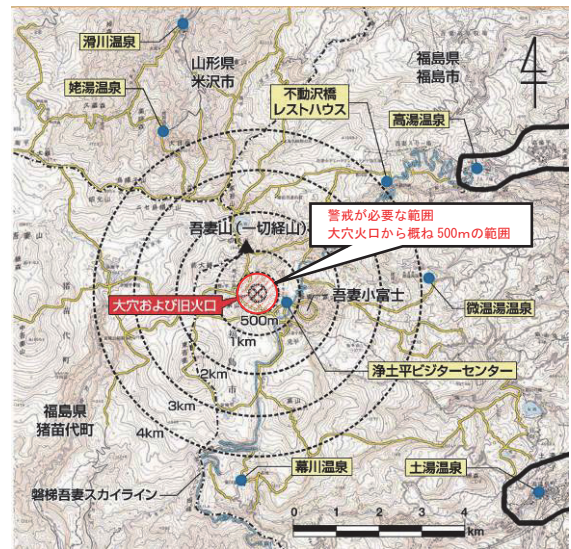
以上のように、吾妻山の火山活動は活発化しており、今後、小規模な噴火が発生する可能性があるかと判断し、12 日 15 時 00 分に火口周辺警報を発表し、噴火警戒レベルを 1（平常）から 2（火口周辺規制）に引き上げた。

火山性地震は、10 月以降、やや多い状況で経過していたが、12 日の火山性微動発生の数日前から多い状況になっている。震源はこれまでと同様に大穴火口直下付近の浅い所と推定される。

浄土平の火口カメラ（東北地方整備局設置）及び上野寺の遠望カメラでは、大穴火口とその付近の噴気の状況に異常は認められない。

GNSS³⁾連続観測では、9 月頃から一切経山南山腹観測点（大穴火口の北約 500m）が関係する基線で緩やかな変化がみられており、一切経山付近の膨張を示唆している可能性が考えられる。

大穴火口から概ね 500m の範囲では小規模な噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石¹⁾に警戒が必要である。また、大穴火口の風下側では降灰及び風の影響を受ける小さな噴石¹⁾、火山ガスに注意が必要である。



吾妻山 警戒が必要な範囲：大穴火口から概ね 500m の範囲（図の赤円内）

なお、以下に挙げる火山では、火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められない。

いわきさん
岩木山 [噴火予報（平常）]
あきたやけやま
秋田焼山 [噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）]
ちようかいさん
鳥海山 [噴火予報（平常）]
くりこまやま
栗駒山 [噴火予報（平常）]
あだたらやま
安達太良山 [噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）]
ばんだいさん
磐梯山 [噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）]

【関東・中部地方及び伊豆・小笠原諸島】
くまつしらねさん
草津白根山 [火口周辺警報（噴火警戒レベル 2、火口周辺規制）]

10 日に群馬県の協力により上空からの観測を実施した。赤外熱映像装置⁴⁾による観測では、湯釜火口内北側斜面、北側噴気地帯で、前回（2014 年 9 月 24 日）の観測と比較して、高温領域の分布に特段の変化は認められなかった。

3 月上旬から湯釜付近及びその南側を震源とする火山性地震が、消長を繰り返しながら多い状態が続いていたが、8 月 20 日以降やや少ない状態で経過している。地殻変動観測によると湯釜付近の膨張を示す変動が認められている。東京工業大学によると、北側噴気地帯のガス成分にも活動活発化を示す変化がみられている。また、全磁力観測による 5 月以降の湯釜近傍地下の温度上昇を示すと考えられる変化は、7 月以降停滞している。

湯釜火口から概ね 1 km の範囲では、小規模な噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石¹⁾に警戒が必要である。噴火時には、風下側で火

山灰や小さな噴石¹⁾が風に流されて降るおそれがあるため注意が必要である。

また、ところどころで火山ガスの噴出が見られ、周辺のくぼ地や谷地形などでは滞留した火山ガスが高濃度になることがあるので、注意が必要である。

あさまやま **浅間山【噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）】**

火山活動に特段の変化はなく、山頂火口から 500m を超える範囲に影響を及ぼす噴火の兆候は認められない。ただし、山頂火口から 500m 以内に影響する程度の噴出現象は突発的に発生する可能性があるため、火山灰の噴出や火山ガス等に警戒が必要である。

みだかはら **弥陀ヶ原【噴火予報（平常）】**

弥陀ヶ原近傍の地震は少ない状態で経過した。立山地獄谷では以前から熱活動が活発に継続しており、この付近では火山ガスが高濃度になることがあるので、注意が必要である。

おんたけさん **御嶽山【噴火予報（噴火警戒レベル 3、入山規制）】**

遠望カメラ等による観測では、白色の噴煙が火口縁上 100～300m の高さで経過している。

山麓で実施した火山ガス観測では、今期間、観測結果は得られていないが、二酸化硫黄の放出量はやや少ない状態が続いているものと考えられる。

火山性地震は少ない状態で経過しているが、8 月以前の状況には戻っていない。

剣ヶ峰山頂の南東約 3 km に設置している傾斜計²⁾では、9 月 27 日の噴火発生の 7 分前から山側上がりの変化がみられ、噴火とともに山側下がりとなるような変化が観測された。その後も緩やかな山側下がりの変化が続いている。今期間、GNSS³⁾連続観測では火山活動によるとみられる特段の変化は認められていないが、国土地理院の GNSS³⁾データの解析によると、長期的には 9 月上旬頃から御嶽山を挟む基線でごくわずかな伸びがみられ、また、9 月下旬頃からごくわずかな縮みの傾向がみられ、12 月までに 9 月上旬頃の基線長に戻っている。

火山活動には低下傾向がみられるものの、今後も小規模な噴火が発生する可能性がある。また、噴気活動や地震活動等が活発化する場合には、火口周辺に大きな噴石¹⁾を飛散させ、火砕流を伴うような噴火となる可能性がある。

火口から 4 km 程度の範囲では大きな噴石の飛散や火砕流に警戒が必要である。風下側では火山灰だけでなく小さな噴石が遠方まで風に流されて降るおそれがあるため注意が必要である。

爆発的噴火に伴う大きな空振によって窓ガラスが割れるなどのおそれがあるため注意が必要である。また、降雨時には土石流の可能性がありますので注意が必要である。

はくさん **白山【噴火予報（平常）】**

16 日 01 時 32 分頃に、山頂付近の深さ約 3 km を震源とするマグニチュード 3.4 の地震が発生し、白山周辺の石川県白山市、福井県大野市、岐阜県高山市で最大震度 1 を観測した。この地震の直後 3 時台にかけて地震が一時的に増加したが、その後、減少している。低周波地震や火山性微動は観測されていない。

地震が一時的に増加する前の期間も含め、遠望カメラによる噴煙の状況等その他の観測データに特段の変化はみられず、噴火の兆候は認められない。

白山では、これまでも浅部を震源とする地震が一時的に増加することがあり、最近では、2013 年 1 月 31 日から 2 月 1 日にかけて地震が一時的に増加した。

ふじさん **富士山【噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）】**

2011 年 3 月 15 日に静岡県東部（富士山の南部付近）で発生したマグニチュード 6.4 の地震以降、地震活動が活発な状況となっていたが、その後、地震活動は低下してきている。その他の観測データでも浅部の異常を示すものはない。火山活動に特段の変化はなく、噴火の兆候は認められない。

いずおしま **伊豆大島【噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）】**

GNSS²⁾連続観測では、地下深部のマグマの供給によると考えられる島全体の長期的な膨張傾向は、2011 年頃から鈍化していたが、2013 年 8 月頃から再び膨張傾向がみられる。その他の観測データには特段の変化はなく、噴火の兆候は認められない。

山体の膨張が継続していることから、今後の火山活動に注意が必要である。

みやげしま **三宅島【火口周辺警戒（噴火警戒レベル 2、火口周辺規制）】**

火山ガス放出量は、長期的に減少傾向にあり、2013 年 2 月以降はやや少量となっている。

火山性地震は少ない状態で経過し、火山性微動は観測されなかった。

GNSS³⁾連続観測によると、2000 年以降、山体浅部の収縮を示す地殻変動は徐々に小さくなり、2013 年頃から停滞している。島内の長距離の基線で 2006 年頃から伸びの傾向がみられるなど、山体深部の膨張を示す地殻変動が継続している。

今後も火口周辺に影響を及ぼす噴火が発生すると予想されるので、山頂火口周辺（雄山環状線内側）では噴火に警戒が必要である。また、火山ガス予報で火山ガスの濃度が高くなる可能性があるとして予想される地域では火山ガスに警戒が必要である。

にしのみ **西之島【火口周辺警戒（入山危険）及び火山現象に関する海上警戒】**

海上保安庁等の観測によると、噴火及び溶岩の流出が継続し、新たに形成された陸地の拡大が確認されている。

25 日に海上保安庁が実施した上空からの観測によると、第 7 火口では間欠的に溶岩片と共に灰色の噴煙を放出する噴火を繰り返していた。また、溶岩流は火口から北西及び北東側に流下し、先端は扇状に広がり海岸に達していた。新たな陸地の大きさは、東西方向に約 1,710m、南北方向に約 1,830m、面積は約 2.29km²（前回 10 月 16 日：1.85 km²）となっていた。また、第三管区海上保安本部が 31 日に行った上空からの観測でも、第 7 火口からの噴煙が確認された。

西之島では、今後も噴火が続くおそれがあるので、西之島の中心から概ね 6 km 以内の範囲では噴火に警戒が必要である。また、周辺海域では浮遊物に注意が必要である。

いおうとう **硫黄島【火口周辺警戒（火口周辺危険）及び火山現象に関する海上警戒】**

硫黄島の海上自衛隊からの連絡によると、16 日 08 時 20 分頃天山付近で数秒間、約 10～15m の黒茶色の噴出が確認された。一時的に噴出の勢いが強まり、泥を噴出したものと推定される。

黒茶色の噴出が確認された時間帯の地震活動に特段の変化は認められなかった。

火山性地震の発生はやや少ない状態で経過している。火山性微動は 13 回発生したが、その他の観測データに異常は認められていない。

GNSS³⁾ 連続観測によると、地殻変動は 2014 年 2 月下旬頃から隆起の傾向、9 月頃から停滞の傾向がみられていたが、12 月上旬頃から再び隆起の傾向となっている。。

硫黄島の島内は全体に地温が高く、多くの噴気地帯や噴気孔があり、過去には各所で小規模な噴火が発生している。火山活動はやや活発な状態で推移しており、火口周辺に影響を及ぼす噴火が発生すると予想されるので、従来から小規模な噴火が発生している地点（ミリオンダーホール（旧噴火口）等）及びその周辺では噴火に警戒が必要である。

ふくとくおか **福德岡ノ場【噴火警戒（周辺海域警戒）及び火山現象に関する海上警戒】**

26 日に海上自衛隊が実施した上空からの観測では、福德岡ノ場付近の海面で火山活動によるとみられる変色水は認められなかった。

海上保安庁海洋情報部、第三管区海上保安本部、海上自衛隊及び気象庁によるこれまでの観測によると、福德岡ノ場では長期にわたり火山活動によるとみられる変色水や浮遊物が確認されており、2010 年 2 月 3 日には小規模な海底噴火が発生している。

今後も小規模な海底噴火が発生すると予想されるので、周辺海域では噴火に警戒が必要である。

なお、以下に挙げる火山では、火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められない。

なすだけ
那須岳【噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）】

にっこうしらねさん
日光白根山【噴火予報（平常）】

にいがたやけやま
新潟焼山【噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）】

やけだけ
焼岳【噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）】

のりくらだけ
乗鞍岳【噴火予報（平常）】

はこねやま
箱根山【噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）】

いずとうぶかざんぐん
伊豆東部火山群【噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）】

にいじま
新島【噴火予報（平常）】

こうづしま
神津島【噴火予報（平常）】

はちじょうしま
八丈島【噴火予報（平常）】

あおがしま
青ヶ島【噴火予報（平常）】

【九州地方及び南西諸島】

くじゅうさん
九重山【噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）】

25 日に火山性地震が一時的に増加し、18 回発生した。火山性微動は観測されていない。九重山で 1 日あたり 18 回以上の火山性地震を観測したのは、2004 年 3 月 26 日の 32 回以来である。

硫黄山付近の噴煙は白色で、高さは火口上 300 m 以下で経過した。

30 日に実施した現地調査では、A 領域下部から弱い噴気が上がっているのを確認した。赤外熱映像装置⁴⁾ による観測では、熱異常域が見られており、その分布に特段の変化は認められなかった。

地殻変動観測では、GNSS 連続観測の一部の基線でわずかな伸びの傾向が認められる。今後の火山活動の推移に注意が必要である。

阿蘇山〔火口周辺警報（噴火警戒レベル 2、火口周辺規制）〕

中岳第一火口では、11 月 25 日（期間外）から噴火活動が活発になり、断続的に噴火が発生した。

噴煙は 12 月 31 日に灰白色の噴煙が最高で火口縁上 1,200m まで上がった。12 月 9 日夜間の噴火では、19 時頃から 21 時頃にかけて強い風が吹き、小さな噴石¹⁾ が風に流されて、中岳第一火口の南西側 1 km 付近に落下するのを遠望カメラで確認した。

12 月 10 日に実施した現地調査では、中岳第一火口の南西側 500m 付近で最大約 20cm の小さな噴石¹⁾ が落下していることを確認した。また、中岳第一火口の南西側の 1.2km 付近で、3～10cm の小さな噴石¹⁾ が落下していることを確認した。

12 月 19 日、25 日の現地調査では、ストロンボリ式噴火⁵⁾ を観測した。

12 月 9 日、15 日、18 日及び 30 日に実施した現地調査では、二酸化硫黄の放出量は 1 日あたり 2,000～3,100 トン（11 月：2,600 トン）と多い状態で経過した。

期間を通して熊本県、大分県、宮崎県の一部の地域で降灰が観測された。

火山性微動の振幅は、大きい状態で継続した。

GNSS³⁾ 連続観測では、西側の基線にわずかな伸びの傾向が認められ、傾斜計²⁾ では 10 日頃から、西上がりの傾向が認められた。

中岳第一火口から概ね 1 km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石¹⁾ に警戒が必要である。

火口周辺では強風時に小さな噴石が 1 km を超えて降るため、風下側では火山灰だけでなく小さな噴石¹⁾ にも注意が必要である。

灰白色の噴煙が火口縁上 1,500m まで上がった。

霧島山（新燃岳）〔火口周辺警報（噴火警戒レベル 2、火口周辺規制）〕

18 日に海上自衛隊第 72 航空隊鹿屋航空分遣隊の協力を得て上空からの観測を実施した。前回（2014 年 10 月 7 日）の観測と比較して、火口内に蓄積された溶岩の形状に特段の変化は認められなかった。新燃岳火口周辺域にも特段の変化は認められない。赤外熱映像装置⁴⁾ による観測では、前回と比較して熱異常域の分布に大きな変化はなかった。

GNSS³⁾ 連続観測によると、新燃岳の北西数 km の地下深くにあると考えられるマグマだまりの膨張を示す地殻変動は、2011 年 12 月以降鈍化・停滞していたが、2013 年 12 月頃から伸びの傾向がみられる。

新燃岳火口直下を震源とする地震は概ね少ない状態で経過した。

新燃岳では火口周辺に影響のある小規模な噴火が発生する可能性があるため、新燃岳火口から概ね 1 km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石¹⁾ に警戒が必要である。噴火時には、風下側で火山灰だけではなく小さな噴石¹⁾（火山れき⁶⁾）が風に流されて降るおそれがあるため注意が必要である。降雨時には、泥流や土石流に注意が必要である。

霧島山（えびの高原（硫黄山）周辺）〔火口周辺警報（火口周辺危険）〕

硫黄山や韓国岳北側に噴気は認められなかった。えびの高原（硫黄山）周辺では、火山性地震が時々発生している。

えびの高原の硫黄山から概ね 1 km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石¹⁾ に警戒が必要である。

風下側では降灰及び風の影響を受ける小さな噴石¹⁾ に注意が必要である。

桜島〔火口周辺警報（噴火警戒レベル 3、入山規制）〕

昭和火口では、爆発的噴火が 32 回発生するなど、活発な噴火活動が継続した。8 日 13 時 44 分と 11 日 18 時 52 分の爆発的噴火では、大きな噴石¹⁾ が 3 合目（昭和火口より 1,300～1,800 m）まで達した。噴煙の高さの最高は、31 日 03 時 24 分の爆発的噴火による火口縁上 3,000m 以上であった。

南岳山頂火口では、噴火は発生しなかった。

18 日に海上自衛隊第 72 航空隊鹿屋航空分遣隊の協力を得て実施した上空からの観測では、昭和火口から乳白色の噴煙が噴出しており、赤外熱映像装置⁴⁾ では、火口内には噴煙の噴出孔や堆積した噴出物に対応する熱異常域が認められた。火口周辺の状況に特段の変化は認められなかった。また、南岳山頂火口は、火口内に白色噴煙が充満していたため火口内を観測することができなかった。南岳山頂火口周辺の状況に特段の変化は認められなかった。

昭和火口及び南岳山頂火口から概ね 2 km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石¹⁾ 及び火砕流に警戒が必要である。風下側では火山灰だけでなく小さな噴石¹⁾（火山れき⁵⁾）が遠方まで風に流されて降るため注意が必要である。爆発的噴火に伴う大きな空振によって窓ガラスが割れるなどのおそれがあるため注意が必要である。また、降雨時には土石流に注意が必要である。

さつまいおうじま

薩摩硫黄島【噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）】

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められないが、硫黄岳火口では噴煙活動が続いており、火口内では火山灰等の噴出する可能性がある。また、火口周辺では、火山ガスに注意が必要である。

くちのえらぶじま

口永良部島【火口周辺警報（噴火警戒レベル 3、入山規制）】

口永良部島では噴火は発生しなかった。火山性地震が時々発生し、火山ガスも噴火前より多い状況で経過しており、引き続き、火山活動は高まった状態で経過している。

14 日に実施した現地調査では、引き続き新岳火口の西側割れ目付近および南西斜面で噴気を確認した。赤外熱映像装置⁴⁾による観測では、新岳火口縁の西側、西側割れ目付近および南西斜面の噴気地帯で熱異常域を引き続き確認した。

18 日に海上自衛隊第 72 航空隊鹿屋航空分遣隊の協力を得て上空からの調査を実施した。新岳火口の西側割れ目付近および南西斜面で噴気を確認した。赤外熱映像装置⁴⁾による観測では、新岳火口の西側から南西側にかけての熱異常域の分布に特段の変化は認められなかった。

東京大学大学院理学系研究科、京都大学防災研究所および屋久島町が 12 月 7 日、9 日、11 日、12 日、23 日、25 日に、福岡管区気象台が 14 日に実施した火山ガス観測では、二酸化硫黄の 1 日あたりの放出量は、1,000～1,900 トン（前回 11 月 26 日：700 トン）と、12 月に入って増加し多い状態で経過した。

新岳火口から概ね 2 km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石¹⁾に警戒が必要である。向江浜地区から新岳の南西にかけて、火口から海岸までの範囲では火砕流に警戒が必要である。風下側では降灰及び風の影響を受ける小さな噴石¹⁾に注意が必要である。降雨時には土石流の可能性があるので注意が必要である。

すわのせじま

諏訪之瀬島【火口周辺警報（噴火警戒レベル 2、火口周辺規制）】

御岳火口では、爆発的噴火が 5 回発生したほか、噴火も時々発生した。7 日 19 時 13 分の爆

発的噴火では、噴石が火口周辺 1 km までの範囲に飛散した。噴火に伴う灰白色の噴煙が最高で、火口縁上 1,000m まで上がった。十島村役場諏訪之瀬島出張所によると、集落（御岳の南南西約 4 km）では降灰は確認されなかった。

18 日に海上自衛隊第 72 航空隊鹿屋航空分遣隊の協力を得て上空からの観測を実施した。御岳火口及び火口周辺の地形等に特段の変化は認められなかった。また、赤外熱映像装置⁴⁾による観測では、御岳火口内及び火口周辺に熱異常域を観測した。

諏訪之瀬島では、今後も火口周辺に影響を及ぼす程度の噴火が発生すると予想されるので、火口から概ね 1 km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石¹⁾に警戒が必要である。風下側では火山灰だけでなく小さな噴石¹⁾が遠方まで風に流されて降るおそれがあるため注意が必要である。

なお、以下に挙げる火山では、火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められない。

つるみだけ がらんだけ

鶴見岳・伽藍岳【噴火予報（平常）】

うんぜんだけ

雲仙岳【噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）】

きりしまやま おはち

霧島山（御鉢）【噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）】

- 1) 噴石については、大きさによる風の影響の程度の違いによって飛散範囲が大きく異なる。本文中「大きな噴石」とは、「風の影響を受けず弾道を描いて飛散する大きな噴石」のことであり、「小さな噴石」とは、それより小さく「風に流されて降る小さな噴石」のことである。
- 2) 火山活動による山体の傾きを精密に観測する機器。火山体直下へのマグマの貫入等により変化が観測されることがある。
- 3) GNSS (Global Navigation Satellite Systems) とは、GPS をはじめとする衛星測位システム全般を示す呼称である。
- 4) 赤外熱映像装置は、物体が放射する赤外線を感知して温度や温度分布を測定する計器で、熱源から離れた場所から測定できる利点があるが、測定距離や大気等の影響で熱源の温度よりも低く測定される場合がある。
- 5) 爆発的な小噴火が間欠的に起こす噴火の様式。発泡した火山ガスが溶岩の中に閉じ込められ、それが時折突発的に開放されることで発生する。この噴火では、灼熱した溶岩が噴水のように火口の上に噴き上げられ、火山弾やスコリアが放出される。
- 6) 霧島山・桜島では「火山れき」の用語が地元で定着していると考えられることから、付加表現している。